

# 伊賀市の決算状況を報告します

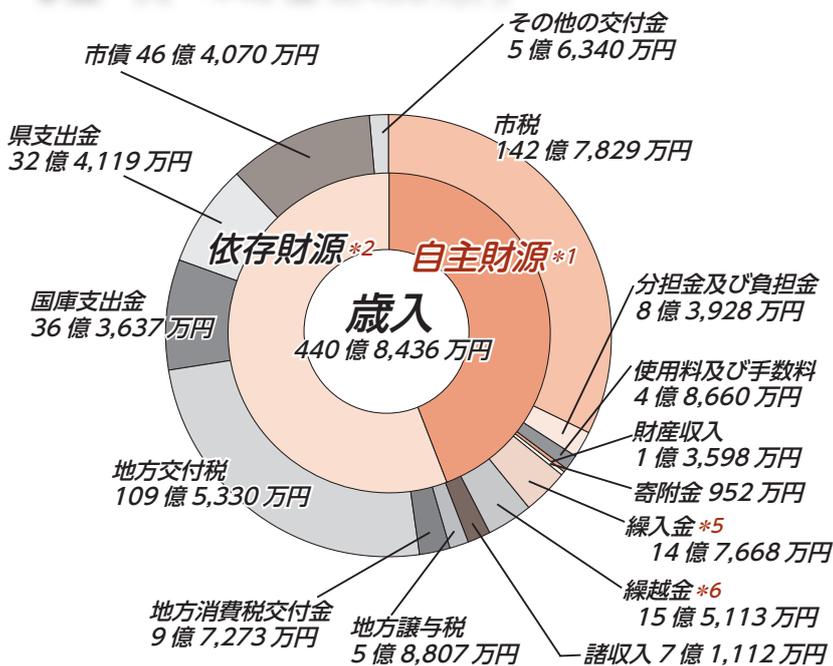
## 平成24年度の決算状況を報告します

### 平成24年度の決算状況

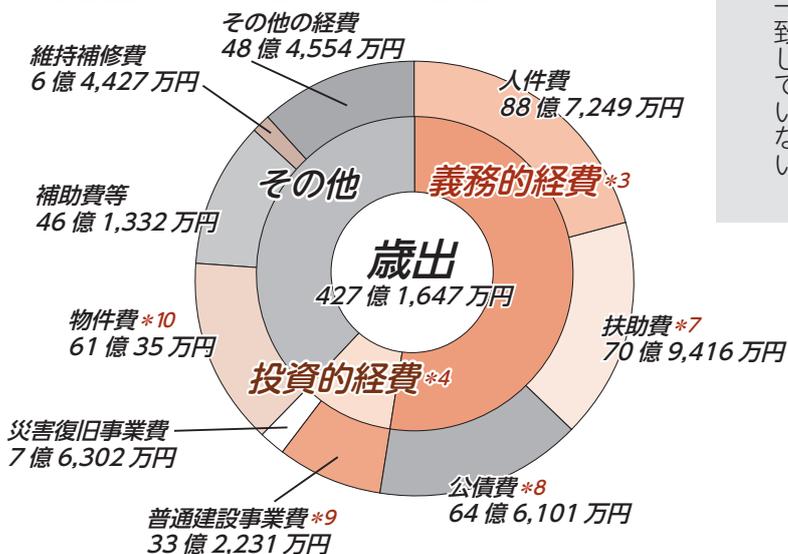
9月に行われた第5回伊賀市議会（定例会）で、平成24年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算が認定されました。今回はその概要をお知らせします。  
 ※表示単位未満を四捨五入していますので、決算書の金額（円単位）と一致していない場合があります。

### ■ 一般会計の決算状況

#### ◆歳入 440億8,436万円

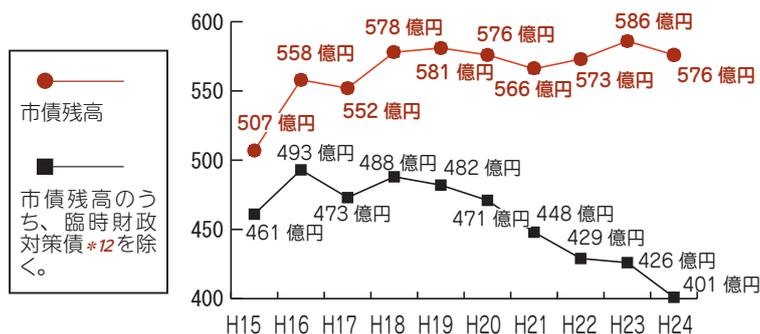


#### ◆歳出 (性質別) 427億1,647万円



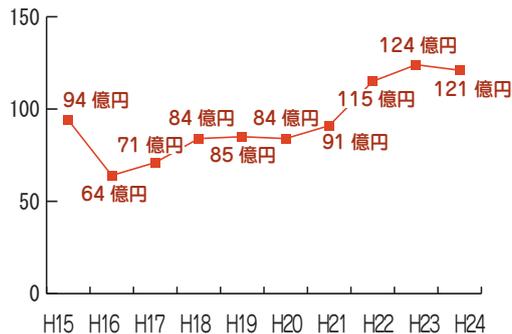
#### ◆市債残高 576億円

市債<sup>\*11</sup>は、いわゆる市の借金です。市民一人あたりでは、およそ59万円です。

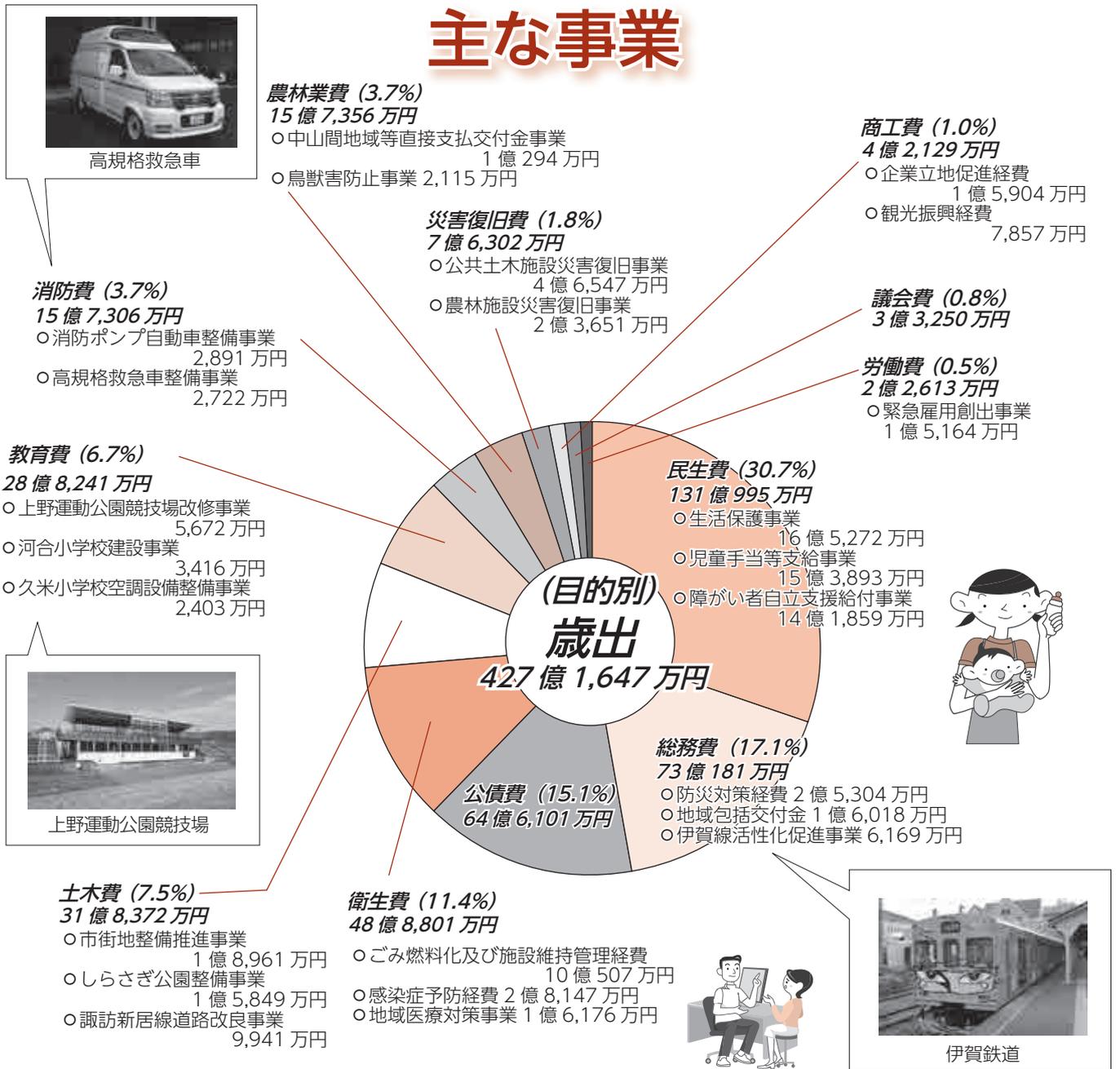


#### ◆基金残高 121億円

基金は簡単にいうと市の貯金です。市民一人あたりでは、およそ12万円です。



# 主な事業



## 財政のことは

- \*1 **自主財源**：地方公共団体が自主的に収入できる財源
- \*2 **依存財源**：国や県からもらう交付金など
- \*3 **義務的経費**：人件費・扶助費・公債費など支出が法令で義務付けられている経費
- \*4 **投資的経費**：その支出が資本形成に向けられるもの。家計でいう自動車や電化製品の購入など
- \*5 **繰入金 (⇔繰出金)**：一般会計と特別会計、特別会計同士など一方の会計の収支不足を補てんするために他方の会計から充当されるお金
- \*6 **繰越金**：決算の結果、前年から繰越しとなったお金
- \*7 **扶助費**：児童・高齢者・障がい者・生活困窮者などに対して、市が行う支援に要する経費
- \*8 **公債費**：市債の元金と利子の返済金
- \*9 **普通建設事業費**：道路、施設などを作ったり、施設を増築したりする経費
- \*10 **物件費**：人件費や扶助費・補助費等・普通建設事業費などを除く経費の総称
- \*11 **市債**：主に道路や建設事業などのための借金。これは公共施設は現在の市民だけでなく、将来にわたり多くの世代で利用するものなので、一度に税金でまかなうよりも、市債を借りて長期に渡り返済することで、世代間の公平性を図ろうという考えに基づいています。
- \*12 **臨時財政対策債**：地方交付税の交付原資の不足に伴い、地方交付税に代わる地方一般財源として発行可能となった特例的な地方債

## ◆市有財産の状況

土地・建物	区分		土地	建物	主な施設
	行政財産	公用財産	81,167㎡	33,194㎡	庁舎・消防施設など
		公共用財産	3,038,894㎡	403,676㎡	学校・図書館・公営住宅・公園など
	普通財産		2,094,547㎡	17,000㎡	上記以外（山林など）
合計		5,214,608㎡	453,870㎡		

## ■特別会計の決算状況

市には、国民健康保険事業など10の特別会計と2つの財産区特別会計があります。特別会計全体の基金残高は約33億円で昨年度と比べ約3億円の増、市債残高は約177億円でほとんど変わりありません。

会計名	収入額	支出額	差引額	基金	市債
国民健康保険事業	108億6,657万円	98億1,590万円	10億5,067万円	12億1,419万円	1,586万円
住宅新築資金等貸付	5,622万円	1億5,152万円	▲9,530万円	11万円	1億859万円
駐車場事業	4,356万円	4,294万円	62万円	—	—
介護保険事業	92億7,722万円	91億3,674万円	1億4,048万円	1億862万円	—
農業集落排水事業	25億3,977万円	24億5,066万円	8,911万円	9億40万円	100億4,137万円
公共下水道事業	7億8,213万円	7億4,451万円	3,762万円	7億9,399万円	74億226万円
浄化槽事業	2,370万円	2,276万円	94万円	4,520万円	1億1,557万円
サービスエリア	1,409万円	1,359万円	50万円	3,210万円	—
市街地再開発事業	5億8,283万円	5億8,283万円	—	—	—
後期高齢者医療	9億6,625万円	9億4,372万円	2,253万円	—	—
島ヶ原財産区	2,852万円	2,704万円	148万円	1億6,195万円	—
大山田財産区	3,055万円	611万円	2,444万円	1,520万円	—
合計	252億1,141万円	239億3,832万円	12億7,309万円	32億7,176万円	176億8,365万円

## ■財政の早期健全化・再生に関する指標

(財政健全化法に基づく指標) ※速報値

平成20年に施行された法律によって、地方公共団体の財政状況を客観的に表し、財政の健全化や再生の必要性を判断するものとして、健全化判断比率を公表することが義務付けられています。

伊賀市の今年度の数値は、昨年度の数値よりも改善しており、すべての指標においても早期健全化基準・財政再生基準を下回りましたが、県内の市の中では下位のほうになっています。

	実質赤字比率*1	連結実質赤字比率*2	実質公債費比率*3	将来負担比率*4	資金不足比率*5 病院事業 水道事業
伊賀市 (昨年度数値)	—	—	13.9 (14.3)	114.0 (117.6)	—
早期健全化基準	11.90	16.90	25.0	350.0	経営健全化基準 20.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0		

※実質赤字額・連結実質赤字額がないため、また資金不足比率は算定されないため、「—」と表記しています。

\*1 実質赤字比率：普通会計（行政サービスを行う一般会計など）の歳出に対する歳入の不足額（赤字額）が標準財政規模\*6に占める割合

金返済額）の割合の3カ年平均値

\*2 連結実質赤字比率：すべての会計の赤字額と黒字額を合わせて計算した赤字額が標準財政規模に占める割合

\*4 将来負担比率：将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

\*3 実質公債費比率：標準財政規模に占める公債費（借

\*5 資金不足比率：公営企業ごとの営業収益に対する手持ち資金の不足額の割合

\*6 標準財政規模：地方公共団体の標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模

【問い合わせ】 財政課 ☎ 22-9608 FAX 22-9694

# 水道事業

## ■事業概要

平成24年度の主な事業としては、伊賀市水道広域化促進事業計画に基づき、上野丸之内・桐ヶ丘・ゆめが丘地内での配水管布設工事、滝川浄水場系・玉滝浄水場系テレメータ等計装設備改良工事などを実施しました。

給水区域内配水施設事業では、農業集落排水事業の進行に合わせて市部・治田・予野地内などにおいて配水管布設替工事を実施しました。

## ■経営状況

平成24年度末における給水戸数は38,515戸、年間総配水量は14,596,111m<sup>3</sup>、有収水量（水道料金徴収の対象となった水量）は11,855,102m<sup>3</sup>、有収率（供給した水量に対する有収水量の割合）は81.22%でした。

経営面では、事業収益が31億2,217万円、事業費用は、30億5,077万円で収益的収支7,140万円の純利益となり、平成23年度末処理欠損金6億9,070万円から減じ、平成24年度末処理欠損金は6億1,930万円となりました。

今後もより一層の経営努力を行い、併せて安心で安全な水道用水安定供給に努めます。

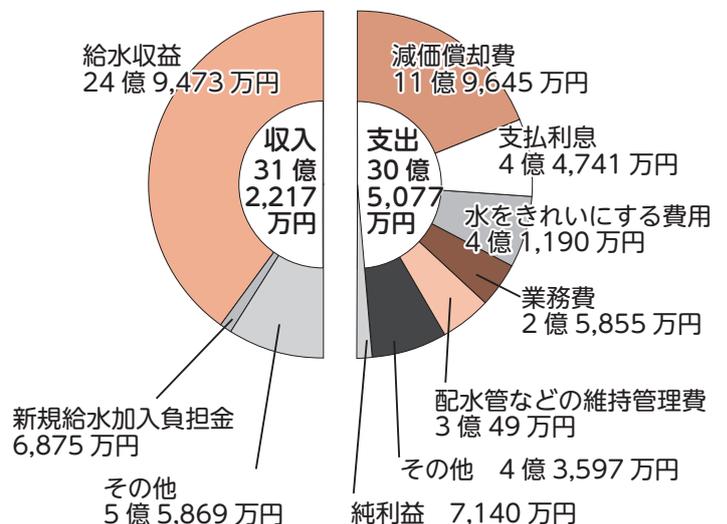
▼ゆめが丘浄水場



## ■平成24年度末の給水状況

現在給水戸数（戸）	38,515
現在給水人口（人）	96,072
配水能力（m <sup>3</sup> /日）	52,489
年間総配水量 A（m <sup>3</sup> ）	14,596,111
1日最大配水量（m <sup>3</sup> ）	45,129
1日平均配水量（m <sup>3</sup> ）	39,989
1人1日平均配水量（ℓ）	416
有収水量 B（m <sup>3</sup> ）	11,855,102
1人1日平均有収水量（ℓ）	338
有収率 B / A（%）	81.22

## ■平成24年度の収入と支出（税抜き）



## ■企業債残高

193億4,292万円



## ■水道事業の決算（消費税・地方消費税を含む）

		予算額	決算額	繰越額	差引	
収益的収支	事業収益	32億7,093万円	32億5,097万円	—	増減額	▲1,996万円
	事業費用	32億3,736万円	31億5,531万円	0円	不用額	8,205万円
資本的収支	収入	9億8,777万円	7億7,982万円	—	増減額	▲2億794万円
	支出	21億5,812万円	19億3,270万円	1億9,533万円	不用額	3,009万円

【問い合わせ】 水道総務課 ☎ 24-0001 FAX 24-0006